

# 俳人協会栃木県支部会報

第29号

## 私の宝物

支部長 大高松竹

一句でもいい、俳句を作っている以上「これが自分の代表作である」という句を作りたい。誰しもそう思っているのではなからうか。

しかし代表作というものは、自分では決められない。自分以外の多くの方の評価を得て決まるものである。最終的にはその作家が、故人になった後までも残る句ではなからうか。

私はまだ生半ばであるが、もし今、あなたの代表作はと聞かれれば、おこがましくも次の三句を上げたい。

- ①天の裏まであををと大築場
- ②牛の糞雪蹴散らして始まり
- ③しづるるやどの出口にも母の杖

①の「大築場」の句は、平畑静塔絶賛の句で、第一句集の句集名にした句である。

### ②の「牛の糞」

の句は、第四十七回俳人協会俳句大賞をいただいた句で、第二句集の句

集名にもし、句碑にも刻ませていただいた。この句は栃木県矢板市にある、JAの矢板家畜市場（一日千頭を取り扱う牛糞市場）に、雨の日も雪の日も、一年間通い続けて得た一句である。

③の「母の杖」の句は、九十二歳で亡くなった母への感謝の句で、自分でも愛着をもっている。

さて標題の「宝物」の話だが、俳句関係の宝物は二つある。

その一つが、高浜虚子から頂いた「はがき」である。昭和二十七年（一九五二）一月二十四日鎌倉局の消印がある。弱冠二十歳になったばかり。「松竹」の俳号をいただいた時のものである。

二つ目の宝物はサイン帳である。サイン帳は烏山和紙の装訂で、そこに俳句を毛筆で揮毫していただいている。

本人自筆の色紙を綴ったようなものがあるが、もう五十年も前から続けていて、百名以上の方の名が連なっている。

今まで誰一人として拒まれたことはなかった。皆さん喜んで揮毫してくださった。多分サインして下さった句は、その作家の代表作であろうと思う。

日本の俳壇を背負ってきた先生方の句も並ぶ。

・摩天楼より新緑がパセリほど

前俳人協会長 鷹羽狩行

・耕人に傾き咲けり山ざくら

現俳人協会長 大串章

・濁りこそ川のちからや白舩

元現代俳句協会長 宮坂静生

・働いて来る日来る日の青嵐

前現代俳句協会長 宇多喜代子

・丑三つの厨のバナナ曲るなり

日本伝統俳句協会長 坊城俊樹

栃木県文化功労者賞を受けた、俳句関係の作家の作品もあり、私にとって更なる宝物である。

山揚げにまことの雲も道具立 平畑静塔

ふるさとは冬男体へつきあたる 手塚七木

大滝やとどろと放つ神の虹 水沼三郎

俳句関係の方とお付き合いをいただいた七十年になる。その蓄積された証が、この宝物である。大切にしていきたい。

令和元年度栃木県支部総会俳句大会の記  
遠藤由樹子先生をお迎えして

平手 ふじえ

7月15日、支部総会・俳句大会を宇都宮市ホテル丸治において、本部より遠藤由樹子幹事を講師にお迎えし開催した。俳句大会の事前投句者は153名、大会出席者は92名であった。

午後1時開会。大高松竹支部長が挨拶に立ち、講師遠藤由樹子先生を紹介した。

総会では、議長に落合惑水副支部長を選任。平成30年度事業・決算報告、監査報告が行われ、次いで令和元年度事業計画案・予算案を審議。原案どおり承認された。

続いて遠藤講師は、「名句に詠まれた青春——草田男と現代の作家」と題して講演。草田男の第一句集『長子』所収の句を解説。

句集上梓までの人生に触れ、草田男独自の感覚世界を説かれた。

次に現代の若き作家たちの青春性溢れる句を紹介。現代の句と草田男の句を読み比べると、時代的隔絶感がなく、それこそが草田男の新鮮さ、青春性であると説いた。また青年期特有の純粋性、鋭敏性、気高さを生涯持ち続けたと結ばれた。

遠藤講師には事前投句の講師選作品に、懇切な講評も頂いた。大会後の懇親会は58名が出席し、講師を囲んでの和やかな会となり盛会裡に終了した。

総会・俳句大会の入選句

遠藤由樹子 選

特選 春耕に鳥の従ふ下野の畑 大島 秀子

特選 純白は吾子の色なり毛糸編む 菊地 緋沙

特選 温情のこもる民話や雛の宵 大出 義子

田水張り古墳は島となりにけり 星 揚子

臨月の牛の荒息夏に入る 中込 とし郎

トランペットは弔ひの音海霧深し 寺内 淳

一穢無き雪溪に入る一步かな 中野 牧子

逝く考にひと夜で縫ひし白緋 長谷川 理雅

風となり鳥となり野遊びの子ら 高山 とよ

あの夏の記憶や父の戦闘帽 木多 美美子

折り目まだ取れぬ制服着て五月 川勾 さちこ

青あらし年を重ねし猫とゐて 加藤 きよ

ぼんやりと豆腐の白さ暮の春 高橋 志津子

山川の多き故郷桜咲く 飯塚 久美子

初夏や二の腕ほそき阿修羅像 館野 澄子

鏡文字まじる手紙や初桜 丸田 礼子

一番星嬉々と捉へて田植終ふ 平手 ふじえ

下野に都わすれのごとく生く 中山 逍遙

新前の教師てこずる芝刈機 上野 キミエ

渡舟呼ぶ旗を掠める燕かな 茂木 弘子

桑原まさ子 特選 臨月の牛の荒息夏に入る 中込 とし郎

鶴見一石子 特選 大代田雲の中より搔き始む 大高 松竹

大高 松竹 特選 臨月の牛の荒息夏に入る 中込 とし郎

平手ふじえ 特選 風となり鳥となり野遊びの子ら 高山 とよ

落合 惑水 特選 田水張りがひの嶺を浮かばせる 島 杜桃

亀田やす子 特選 大使館灯る湖畔の明易し 松田 富夫

木多美美子 特選 青き踏む兎は全身を声にして 野中 千秋

令和2年栃木県支部賀詞交歓俳句大会の記

山崎祐子先生をお迎えして

星田一草

2月2日、栃木県支部恒例の賀詞交歓が宇都宮市のホテル丸治にて開催された。

当日は本部より山崎祐子評議員を講師にお迎えし、参加者83名により緊張の中にも楽しい時間を過ごした。

大高支部長の挨拶に続き、各結社の紹介や活動の様子など和やかに交わされ親交を深めた。

続いて「暦の構造と季節感・栃木の民俗を例に」と題しての山崎講師による講演が行われた。

太陽暦（新暦）と太陰太陽暦（旧暦）との関係。

自然暦のお話。栃木県の民俗的行事などをプロジェクターを用いて解説された。

季語は旧暦の季節感を基本とされていること。年中行事も基本は旧暦であることなど県内の事例を示されてのお話は興味深いものでした。

講演後、入選作品の発表と山崎講師の選評をいただき閉会となった。

賀詞交歓俳句大会の入選句

山崎 祐子 選

特選 新雪の野を少年のためらはず 青木洋子  
 特選 霧の道人黒く来て黒く去る 山岸修児  
 特選 土に値を書いて牛売る冬日向 伏木ケイ  
 天領の空より手繰る通草かな 加藤多美子  
 枯葉鳴らして一山の昏れにけり 五十畑悦雄  
 網打つて寒鮠の群覚ましけり 大高松竹  
 考へてゐる間も銀杏散りつづく 中込とし郎

日の出いま沖に潮吹く鯨かな 鈴木たみ女  
 紙漉の揺らして波を静めけり 星揚子  
 咲きてなほ折り目正しき桔梗かな 星田一草  
 白萩を起こす母抱き起こすごと 和泉澄雄  
 この里や油滴のやうな冬銀河 木多美子  
 天地を称へ茸の山に入る 石川定子  
 それぞれの空を誇りて木守柿 板垣博史  
 アザーンに犬の遠吠え秋あつし 福島和子  
 一布衣となり名月待てるなり 鶴見一石子  
 八溝嶺へ雲走る日や子持鮎 平手ふじえ  
 牡丹焚火はつかに甘き香にて果つ 平手ふじえ  
 坂を来て潮鳴り重し枯銀杏 大貫良明  
 しつけ糸するりと抜けて冬に入る 野乃かさね  
 桑原まさ子 特選  
 海を引き寄せ豪然と初日の出 青木洋子

鶴見一石子 特選

泰然自若男体山に初日かな 栃木光歩

大高 松竹 特選

柵田守る一戸に雄々し鯉のぼり 寺内 淳

平手ふじえ 特選

網打つて寒鮠の群覚ましけり 大高松竹

蓮實 淳夫 特選

男体山に純白の蓑干大根 木野ナオミ

落合 惑水 特選

毛野馳ける将門の火とも麦熟る 寺内 淳

亀田やす子 特選

淑気満つ正座くづさぬ豆剣士 青木賢子

木多美子 特選

土に値を書いて牛売る冬日向 伏木ケイ

## 事務局からのお知らせ

令和2年総会後の事務上の諸連絡の受付は、左記のとおり分担致します。

1. 入退会、住所変更、所属結社の変更など会員名簿に関する連絡、その他事務全般

平手 ふじえ

〒320-0072

宇都宮市若草3-7-24

TEL 028 (625) 2005

FAX 028 (627) 6388

2. 会計に関すること

岡田 幸子

〒320-0017

宇都宮市戸祭台11-8

TEL 090 (5576) 8552

### 『栃木吟行案内』申込先

〒169-8521

東京都新宿区百人町3-28-10

公益社団法人 俳人協会 吟行案内係

TEL 03-3367-6621

FAX 03-3367-6656

頒価 一、五〇〇円(税込)

送料 一冊三〇〇円

(2冊以上はお問合せください)

振替 00160-2-273

## 予 告

俳人協会栃木県支部

令和3年賀詞交歓俳句大会

日時 令和3年2月7日(日)

午後1時開会

会場 宇都宮市 ホテル丸治

主管 けごん

諸事情により、変更が生じた場合は御了承ください。

詳細は後日、支部会員・賛助会員に郵送でご案内致します。

### 謹 悼

俳人協会栃木県支部会員で、次の方々がご逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表しますと共に、ご冥福をお祈りいたします。

久保田豊秋 様 島 杜桃 様 鈴木 正夫 様

発行日 令和2年5月

編集 俳人協会栃木県支部事務局

〒320-0072

宇都宮市若草3-7-24

TEL 028-625-2005

平手 ふじえ 方